

安全人報誌

安衛委 No119
平成23年12月10日
安全衛生推進委員会

年末年始無災害運動

実施期間

平成二十三年十二月一日～
平成二十四年一月十五日まで

年末年始無災害運動は、働く人たちが年末年始を無事故で過ごし、明るい新年を迎えることができるように実施するものです。

今年度は東日本大震災の後も台風や集中豪雨による自然災害が多発しており、一日も早い復旧・復興を願う被災地においては、建設産業に大きな期待が寄せられています。従来からの工事に加え、災害工事の増加が見込まれるなか、これから迎える年末年始には、工事が輻輳することもあつて、労働災害の



多発が
危険さ
れると
ころで
す。

この趣旨を踏まえて「無事故の歳末 明るい正月」を標語に展開します。次の事項を実施してください。

○火気の点検確認等、火気管理の徹底

○飲酒、睡眠等生活リズムに関する健康指導の実施

○安全衛生旗の掲揚及び年末年始無災害運動ポスターの掲示

○不安全行動による災害防止徹底

・危険予知活動、ヒヤリハット運動、ひと声かけあい運動等

・作業手順書に定めたリスク低減策、危険予知活動で決めた対策の確実な実施

・安全帯等適切な保護具使用徹底

・近道、省略行為防止の徹底

・新規入場時の安全衛生教育徹底

事故防止 交通 事故



運動期間
平成二十三年十二月十日～
平成二十四年一月七日まで
運動の重点
○飲酒運転の根絶
飲酒運転は、悲惨な交通事故を起す原因になることを知らない人はいないと思います。
また、その軽率な行動が、被害者及び被害者家族の悲しみ、加害者家族の悲哀（失職、家庭崩壊等）多くの人を不幸にしてしまいます
○「PM5ライトオン運動」
秋から年末にかけては、日没時間が早まるため、交通事故が増加して、特に午後4時から午後8時の時間帯に、横断歩行者等が被害者となる重大な事故が多発する傾向があり、日没前後の時間帯は、下校、買い物、退社時間等が重なり、道路交通が錯綜する時間帯であるとともに、視認性が低下して周囲の状況が確認しにくくなり、「ドライバーも一日の疲れが重なり集中力が低下しがちなため、車両を安全に走行するためには、車両の存在をいち早く周囲に知らせるほか、交通の危険を早期に発見し回避することが重要なため、早めに点灯してください。」
「肺炎」のサインかも
肺炎は、主に細菌やウイルスが肺に感染して起こす病気です。がん、心臓病、脳卒中に次いで、日本人の死因の4位で、年間ですべて10万人以上の方が亡くなっています。その95%を65歳以上の高齢者が占めています。
症状が風邪と似ているため、発見が遅れがちです。また、高齢者になるほど、体力や免疫の働きが低下してくるため、肺炎を起こしやすくなり、発症したときに重傷化しやすいという傾向があります。高齢になるほど、慢性的な病気を抱えている人も多く、このことが重症化しやすい要因のひとつともなっています。熱やせきが続いても「なんだ風邪くらい」と健康自慢をしている人こんな人が肺炎にかかりやすい人です。「いつもの風邪とは違うな」と思ったら、かかりつけ医に診てもらいましょう。家族の人が日頃から注意してあげるのも大切です。高齢者や慢性の病気を抱えている人は、肺炎にかかりやすいばかりでなく、治りにくいので注意しましょう。肺炎も早期発見・早期治療が重要です。